

新潟県薬剤師会 薬剤師ボランティア活動報告書

班名	C 班	報告日	平成 23 年 4 月 15 日
報告者氏名	堤 文範	同行者氏名	上松 恵子
活動期間	4月 8日 ~ 4月 11日	宿泊場所	石巻高校
活動拠点	石巻高校	ジャンプへの掲載	○掲載してもよい・掲載を希望しない
交通手段	レンタカー		
主な活動 (簡潔に)	避難所開設の診療所での調剤・投薬、避難所での必要 OTC、衛生環境改善物資の配布、啓発。		

<活動の内容>

4月8日。前日に宮城から帰られた方から連絡を受け、予定より1時間30分早い7:00に新潟県薬剤師会館を出発。新潟県薬剤師会館にあった救援物資などを積み込み、新潟中央 I.C から磐越道で福島方面へ。

前日4月7日に宮城で起きた震度6強の余震の影響もなく比較的順調だった。磐梯山 S.A で休憩後出発すると所々に段差が目立ち始める。また、地震の影響によって1車線通行できない場所もあった。郡山 JCT から東北道を北上し、宮城県薬剤師会館の最寄の I.C である宮城仙台 I.C へ。東北道も段差が目立つが11:10頃宮城県薬剤師会館に到着。ここまでは信号機も点いており停電していない様子だった。

これから向かう石巻市周辺の地図と不足医薬品の発注用紙、宮城県薬へ提出する参加報告書、宮城県薬ジャンパーを受け取り簡単な現状説明を受ける。「今回の活動で目にした物、聞いたことをたくさんの人に伝えていくことも大事な仕事です。」という言葉がすごく印象に残った。

7日の大きな余震の影響で石巻市へ向かう高速道路が一部通行止めになっていた為、カーナビを頼りに一般道で石巻高等学校へ。停電の影響なのか、信号機の故障なのか、点いていない信号機が目立ち始める。

所々ガソリンスタンドに並ぶ車の列で渋滞が起きている。少しずつ地震の影響によると思われる道路や建物の亀裂、窓ガラスが割れている建物が増えてくるが、地震から約1ヶ月経ち昨夜大きな余震があったものの比較的落ち着いたように見えた。

ガソリンスタンド渋滞にはまりながら2:40に石巻高等学校に到着。石巻高等学校は午前中には停電が回復していたが、断水状態。

同じ4月8日に現地に到着した宮城県薬剤師会2名、長崎県薬剤師会1名、沖縄県薬剤師会2名が石巻高校会議室(ここが本部になっていた)待機中で、他の県から来た薬剤師ボランティアは午前中の停電の影響で石巻日本赤十字病院が大混乱していたようで、そちらの応援に行っているとのことだった。

この日は到着時刻の関係でできる業務がなかったため、その日到着したメンバーで日和山公園へ。

この公園は高台にあったため津波の被害を受けることがなく、被害を受けた石巻市を一望できる場所。

到着すると目を疑うような光景が広がっていた。どんな街並だったのか想像もできないほどの景色。潮の匂いに混じって何かが腐ったような嫌な臭いも微かにする。

16:00前後になり業務を終えた人達が本部に帰ってくる。メロンパンチームに帯同していた人達は18:00すぎに帰ってきたと記憶している。

全員揃ったところで簡単な自己紹介と業務説明。

夕食後ミーティング。夕食はカップ麺。お湯は自由に使え、レトルト、缶詰などを食べている人もいた。

夕食時にも震度4くらいの余震を確認。

リーダーは沖縄県薬剤師会の方。

4月8日のミーティングの内容は、石巻高校診療所・女川町立病院・女川総合体育館の調剤業務、各避難所の巡回、メロンパンチームに帯同した方々の報告。

石巻高校診療所は地元の薬剤師、看護師の補佐。一時期より減った様子。

女川町立病院には3名、女川総合体育館には1名の薬剤師を派遣。女川総合体育館は1名の派遣だけだと忙しいと

いう報告だった。各避難所の巡回ではこの時期になり避難する際、片付けの際に酷使した体の痛みが出てきている様子で痛み止めの貼り薬、塗り薬が必要なのと、水がなく手洗いがアルコール消毒になっているので手が荒れる為ハンドクリームが必要という内容だった。

メロンパンチームは4月8日は調剤された薬を避難者に届ける業務が主な業務だった様で、避難者へのインタビューなどはほとんどしなかったとの報告だった。

各チームの報告が終わると次の日の人員配置の決定。

石巻高校診療所(土曜日だったので午前みの診療) 上松(新潟)

女川町立病院に3名、女川総合体育館1名、メロンパンチーム2名、避難所巡回4名

渡波小学校 堤(新潟)

渡波小学校には3日ぶりの派遣ということで情報がまったくなし。

診療所の状況、衛生環境、OTCの在庫など情報を取ってくるようお願いされる。

ミーティングが終わると自由行動。初日ということもあり緊張していたが、自分よりも経験が多い方ばかりだったので在宅医療の話などいい話をたくさん聞いた。

23:00就寝。就寝する部屋は就寝する時間は特に寒いといったこともなかったが、夜から朝にかけて雨が降ったようで朝方は冷え込む。

4月9日。寒さで5:30に起床。前日の夜から朝にかけ雨。聞いたところによると4月7日、8日より冷え込んでいるとのことだった。

6:50から朝のミーティング。

人員配置の変更なし。前日からの雨で冠水していたり、地震で地盤が緩んでいるところへの雨なので土砂崩れの心配もあるので十分注意するように話がある。

今日向かう渡波小学校までの所要時間が分からなかった為7:30に石巻高校を出発。

石巻高校から車で南方向へ向かい、海岸線を目指す。昨日日和山公園から見た景色とはまた違うショッキングな光景。住宅はほとんど木片に、かろうじて残っている家もとても住める状況ではない。鉄筋コンクリートの建物も火事の影響で黒くなっている建物、鉄筋の骨組みだけを残している建物、コンビニやガソリンスタンドは背の高い看板だけを残して建物は壊滅。糞尿の臭いと何かが腐ったような臭い。所々雨の影響なのか道路は冠水。両脇には瓦礫の山。瓦礫の撤去や道路の陥没などで通れない道も多い。

398号線に入っても目を覆いたくなるような光景が続く。いたるところにボロボロの車が転がっていたり、木に乗り上げていたり、何台も折り重なっていたり。道路の中央分離帯にある松林にも漁で使うような網、瓦礫、車が引っかかっている。

映画の様な光景だとよく表現されるが映画でもこの様な光景は表現できない。写真や映像ではとても伝えきれない惨劇。この街を建て直すには誰でもいい、もっと多くの人が必要だと感じた。

8:10には渡波小学校に到着。渡波小学校周辺はもともと細い道が多く、今は瓦礫もたくさんあるためかなり道幅が狭くなっている。

ここにも津波が到達しているようで、学校の外周の柵に車が突き刺さっていたり、教室の柵には泥だらけのランドセルが入ったままだった。教室の窓には自分の胸のあたりまで泥がついており、この高さまで海水が入ってきたことが分かる。少し早くついてしまったため、体育館にいたOTC、衛生品などを配布している方とも少しお話。

現状、感染症が広がっているなど大きな問題はないとのことだった。

ただ、雨の影響もあり、体育館内はかなり湿度が高く、空気があまり良くない。

この日の業務内容は、渡波小学校内の診療所で各県のDMAT、日本赤十字、JMATの事務員、看護師が服用していた薬の聴取や血圧などを問診し、医師が診察。それに基づき調剤、投薬するという業務内容だった。

前日は大きな余震の影響もあり午前は休診。診察に来る避難者が午後にかたまつた為、忙しかった様子。またグラウンドには楽天の選手が訪問していたと聞いた。

医薬品はダンボールで作った棚に入っており、鑑別、効能ごとに分けるなどの作業が必要な状態。常駐する薬剤師もおらず短い日数でここで仕事をする薬剤師が変わる。

今回は広島県薬剤師会1名、愛媛医科大学の薬剤師1名(午前中のみ)、高知県のDMATの薬剤師2名と自分の5名の薬剤師でまずバラバラにダンボールに入っている医薬品を効能別に仕分けし、初めて入る薬剤師でもどこに何があるかすぐわかるような状態にするため作業を始めた。また同時に医師の診察も始まり、処方箋に基づく調剤を始めた。

問診3レーン、医師の診察3レーンと体育館や2階、3階に避難している場所へ医師が巡回し発行した処方箋も調剤。この診療所がない薬、長期処方が必要な慢性疾患の薬は石巻日本赤十字病院で調剤し、お渡しする為別途処方箋が用意され、受診した人には引換券を渡し、後日薬をお渡しするという事になっていた。薬が避難者の手元に届くまで3~5日を要する状態だった。

午前中は医薬品の整理と調剤でバタバタと忙しかったが、午後には落ち着きを取り戻した。

その日、渡波小学校では15:00から自転車の抽選会があるとのことで、避難者はかなりピリピリしている様子。また13:30頃から避難所の清掃も入るとのことで忙しく動いている人の姿もあった。また、心エコーなどが出来る車も来ていた。

医師は専門外の領域を見ることも多く、普段使っている薬がないこともあるので薬剤師への質問が多い。

特に多かったのが用法・用量、小児量、薬の色や外見での鑑別などの質問が多かった。患者の疾患名だけ伝えられ、どの薬がいいかという質問も多かった。

処方内容としては、上気道炎などによる咳、アレルギー(鼻、目)、風邪、慢性疾患(血圧、糖尿、前立腺肥大、血栓症)、不眠などが目立った。不眠の方は余震が来るのが怖く、睡眠薬を飲むことで地震が来ても起きれないのではないかと心配されていた。抗アレルギー薬は朝や昼薬を飲んで眠くなると片付けなどが進まないとのことで夜だけ飲めばいい薬や眠くなりにくい薬の処方が目立った。スタチン系、フィブラート系の薬の種類が少なく、尿酸値を下げる薬も不足気味だった。

避難者は全体的に協力的で譲り合って生活しているように見えた。午後には雨も止んだが肌寒い。

15:30診察終了。

16:10に石巻高校に到着。

帰り道は行きとルートを変えて、石巻駅の方まで398号線を西へ。旧北上川を津波が登ったようで街は壊滅的な被害を受けている。船が道路の真ん中に転がっていたり、周囲の商店街は建物は流されていないものの、ドア、窓は壊れ家の中の物で使える物は全くなく外に出してあった。北上川に架かっている橋の柵もボロボロ。3月11日まではきれいな商店街だったと思われる街がヘドロ、瓦礫、車、船の散乱する街になっていた。そんな中でも建物の中の泥などをかき出したりする数多くのボランティアとすれ違ったが、あの数のボランティアでも足りていないと感じた。

石巻高校ではまず本部に提出する報告書の作成後、夕食。本部に提出した報告書は上記に似た内容。

夕食はカップ麺と自衛隊から頂いたおにぎりと豆腐。おにぎり、豆腐は期限が4月9日までのものだったがおいしく頂いた。

その後、夜のミーティング。

女川町立病院は診療所の引越しのため6名ほどの薬剤師が必要かもしれないとのことだった。

メロンパンチームは6ヶ所の避難所を巡回。慢性疾患で以前処方された薬の残りが少なくなってきた状態。

牡鹿、女川の避難所はアレルギーの点鼻液、炎症止めの塗り薬が必要。ただ避難所まで行く道がかなり危険な場所が多く、崖側を走ると崩落し車ごと落ちてしまいそうな道も多数あったとのことだった。

4月10日の人員配置。

石巻高校診療所1名、渡波小学校は薬剤師が確保できた為12日まで派遣の必要なし。

女川町立病院6名、女川総合体育館1名、メロンパンチーム4名、石巻地区避難所巡回2名、渡波地区、稲井地区避難所巡回 堤、山形県薬の方、女川地区、牡鹿地区避難所巡回2名(福井県薬チームは女川原発のほうまで足を伸ばすとのことだった)

4月10日からはリーダーは宮崎県薬の方2名。現在集まってきている情報のまとめも同時進行で行うことになった。

また今後石巻日本赤十字の薬剤師とも密に連携を取り、効率よく支援していこうという方針になった。

23:00消灯。この日はボランティアの人数が多かったため自分は車で就寝。23:00すぎにも震度3~4の余震を確認。朝方はかなり冷え込む。寒さで4:00頃起床。

6:50、朝のミーティングでの人員配置の変更はなし。この日からメロンパンチームと巡回する避難所がかぶらないように、石巻日本赤十字から連絡を受け、メロンパンチームが巡回する避難所を教えてもらえる体制になる。

石巻日本赤十字病院からの連絡を受け、渡波地区、稲井地区は万石浦中学校、洞源院、稲井公民館、涼風園を巡回することになった。

総合感冒薬、咳止め、鼻炎薬、痛み止めの塗り薬、貼り薬、目薬(アレルギー用)、マスク、消毒薬、ハンドクリーム、マキロン、絆創膏、コンタクト洗浄液など車に載るだけ積み込み、9:00に出発。

9日と同じように398号線を東へ。渡波地区を抜け万石浦小学校に到着。万石浦小学校周辺は津波の被害はなかつ

たようで、近くのスーパーのイオンや他の店も営業している所もあり、避難所内の診療所とイオン内の薬局と調剤薬局の2店舗が営業しているため、医薬品、OTCで不足しているものはないとのことだった。また、衛生環境も良好で、お風呂もあり周辺の避難者が入浴しにきていた。

万石浦小学校から東の橋を渡り、高台の上にある洞源院へ。

報告では100名近くの方が避難しているとのことだったが、現在は20~30名ほどになっていた。

また、毎週火曜、金曜に医師が診察しに来ているようで健康状態が悪い人はいなかった。ただ地震後しばらくは咳の症状を訴える人が後を絶たなかったが、現在は回復。花粉症の人がいるのと、喉の痛みを訴える人がいるくらいだった。マスク、消毒薬も充実していたため、ザジテン、鼻炎薬、子供用風邪薬、念のため絆創膏とマキロンなどを渡して涼風園へ。来た道を戻り涼風園に到着。ここも建物もきれいに保たれており、衛生環境は良好。ただ、高齢者が多かったのもあるのか痛み止めの湿布が不足気味。またここでも花粉症の方が多いため、OTCをお渡し。使い捨てコンタクトレンズを使用している方がいたのでそれもできれば欲しいとのことだった。

涼風園の近くで平和会館というところが避難所になっていたのでも訪問。ここにも定期的に医師が診察に来ているようで、医薬品などは充実しているとのことだった。稲井公民館は前日に別グループが薬を置いていったとのこと今回はいらないとのことだった。

渡波、稲井地区の巡回は午前中で終わってしまったので、一度石巻高校本部へ。

昼食を取り、蛇田小学校の診療所の看護師が頭痛薬を必要としていること、石巻日本赤十字病院に最新の避難所の情報があるとのこと、バファリンとUSBフラッシュメモリーを持ち再度出発。

陸前山下駅近くの踏切を渡り45号線を通って蛇田小学校へ。津波の影響はなく、この周辺も営業している店が多い。ただ、最近不審者が出没しているようで日が落ちる時には避難所のドアを施錠するという張り紙があった。看護師に薬を渡し、石巻日本赤十字病院へ。データをもらって石巻高校へ戻ると15:00くらいだった。

その後メロンパンチームを迎えに再度石巻日本赤十字病院に行き、この日の活動を終了。

この日も夕食はカップ麺。その後ミーティング。

石巻市薬剤師会の丹野先生から東松島地区で医療関係者の手が回っていないところが多く今後巡回が必要。また、今は大きな避難所に避難しているが、学校が始まる関係で小さな避難所に50人くらいに分けることになるという話がある。また、湊小学校の診療所に1名、女川総合体育館にもう1名の薬剤師の派遣要請があった。

ただ11日は午前中だけという期限付きでできる活動がなかったため、11日の朝に石巻高校を出発し、新潟に戻ることにした。

23:00就寝。この日も朝方冷え込み、4:00頃起床。

先日地元の方が作成した石巻周辺の地図を黒板左に貼り、黒板の情報を整理。

9:00に石巻高校を出発。その日は石巻高校から宮城県薬剤師会館までの高速道路が通っていたため1時間ほどで宮城県薬剤師会館に到着。宮城県薬剤師会の専務理事、廣重 憲生さんに活動内容の報告とお礼を言われ、新潟に向けて出発。出発前に南三陸で活動した薬剤師よりノロウイルス感染を疑う症状が出始めているという報告があった。東北道、磐越道は順調で渋滞もなく、15:00に新潟県薬剤師会館に到着。

今回ボランティアに参加させてもらって本当によかった。ただ、実際に自分が避難者の方々の力になれたかどうかはまだ自問自答の最中。何度か避難者の方と話をすることがあったが、本当に健気に精一杯生きている。他県から来ているとわかると必ず「ご苦労様。」「ありがとうございます。」という言葉がかけられる。

また、避難者を含め被災地で診察に当たる医師も薬剤師を必要としているのがよくわかった。

薬剤師はもっと専門性を高め、薬のプロとして世の中にたくさん貢献できることをアピールするチャンス。

一人でも多くの薬剤師が、一人でも多くの被災者の力になれることを祈って報告を終わります。